『ブルーノート』

こころが願う私になるヒント

片岡あさ

目次

カインド・オブ・ブルー 1
私なりの Dreams Cometrue 3

奥付
奥付 7

カインド・オブ・ブルー

病気で働けなくなった私は人生のどん底にいました。そんな時、知人がこの本を教えてくれました。タクマクニヒロ『カインド・オブ・ブルー』(二見書房) です。※現在は『ブルーノート』として雷鳥社から販売されています。

「読むと絶対元気になるよ。心が励まされるんだ。」彼がそう言った理由がわかりました。サラリーマンだったタクマさんはなぜ 25 歳で専門学校に入学し、ド素人からプロのカメラマンとして転身したのか。空の写真に添えられた一言一言にその理由が散りばめられていました。

勤務していたを会社を退職してプロカメラマンのアシスタントになった宅間さん。物販用の写真を取るカメラマンとしてアシスタントを始めたものの来る日も来る日も怒鳴られっぱなしで体調を崩し、やめさせてもらったそうです。しかし後に気持ちが立ち直った時、こんなことを思われたそうです。

>「やっぱりプロになるのって大変なことなんだ」とおもいっきり落ち込んだ。しばらくして冷静に考えたら、「カメラマンのアシスタントとしてダメだったわけで、カメラマンとしてダメだったわけじゃないじゃん」という事に気が付いた。「だったら独学でやってみよう」と思った。
>
> 貧乏生活が始まって生活は不安定になったけれど、こころは安定した。
>
> タクマクニヒロ『ブルーノート』(雷鳥社) より引用

自分の可能性を信じて、写真を出版社などに売り込み、少しずつチャンスを広げたタクマさん。独学で補えない面は他のプロカメラマンにお願いしてタダ働きで撮影の様子を手伝いながらコツを掴んでいったそうです。

タクマさんが試行錯誤しながら身につけていったことは「いろんなことを経験して思ったこと」に凝縮されています。

＞・何かをする時は、どちらが損か得かということより、楽しいか楽しくないかで選んだ方がいい。
＞・「いつかやろう」と思っている限り永遠に何もできない。
＞・壁にぶち当たったら、すぐあきらめないで壁にそってず〜〜と歩いていると、必ずどこかに小さな隙間が見える。
＞・辛いことや嫌なことが起った時は、立ち止まって考えてみようというサイン。
＞
＞ 前掲書 P,90〜91 より抜粋

何かに迷ったときに参考になるアドバイスばかりに思いました。私は前に進み始めました。

今は家族に囲まれ、NPO で子供たちに ICT を教え、IT 系メディアでのびのびと書く。地味ですが心満たされた日々を過ごすようになりました。かつて願ったように執筆でお金をもらって生活することはできませんでした。しかし私の心が願っていることを行い、心が満たされた毎日になりました。

ダメだと思った日々も努力は確実に積み重なっていました。頑張る方向性があっていれば夢は叶いやすい。そして間違った時も無駄にはならず積み重なっているのかもしれません。

今『ブルーノート』を読み返すたびに思います。「振り返ってみれば自分に起こるすべての出来事は、自分にとってベストタイミングで起こっていた。(前掲書 p,69)」と。

私なりの Dreams Cometrue

『ブルーノート』のメッセージを自分なりに実行した結果、私は長年なりたいと思っていた「アシタント職のライター」になりました。「物書きになりたい」と周りにいい続け、書き続けていたからチャンスが来たのだと思っていました。

しかし、世の中はそんなに甘くありません。何も知らない状態で入ったためできないことばかり。唯一うまくいったのは IT 系の本の執筆でした。ですが既に実績のあるテクニカルライターがいらっしゃいましたので、私は他のジャンルで書かざるえませんでした。

何を書いても「読み手にとってわかりやすくない」「面白くない」「使えない」と没になる日々。お金もない。時間もない。どうしていいかわからない。謝ってばかりの日々でした。しかし副業で始めた講師の仕事は不思議と生徒さんたちに喜ばれる事が多く、私の心が満たされました。ライティングの仕事は 3 年で辞めました。

本来なりたかった物書きの仕事とは遠く離れ、IT 系の講師として教える日々が続きました。「プロの物書きではなく IT 系のメディアで専門的な記事を書いたらどうか」と薦めてくれる人がいました。IT 系メディアのブロガーに応募する際、条件に本の執筆経験があることが書かれていました。

執筆した自著がないと落ち込みましたが、昔、アシスタントとして書いた IT 系の本が実績として承認されました。ボツになりながらすごしたアシスタントの日々は数年後、遠回りして実となっていました。

今は家族に囲まれ、NPO で子供たちに ICT を教え、IT 系メディアでのびのびと書く。地味ですが心満たされた日々を過ごすようになりました。かつて願ったように執筆でお金をもらって生活することはできませんでした。しかし私の心が願っていることを行い、心が満たされた毎日になりました。

ダメだと思った日々も努力は確実に積み重なっていました。頑張る方向性があっていれば夢は叶いやすい。そして間違った時も無駄にはならず積み重なっているのかもしれません。

今『ブルーノート』を読み返すたびに思います。「振り返ってみれば自分に起こるすべての出来事は、自分にとってベストタイミングで起こっていた。(前掲書 p,69)」と。

奥付

奥付

『ブルーノート』-なりたい私から、こころが願う私になるヒント-

../../book/48266

著者：片岡麻実

著者プロフィール：
../../users/kataoka-asami/profile

感想はこちらのコメントへ
../../book/48266

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/48266

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（ https://puboo.jp/ ）
運営会社：株式会社 paperboy&co.

『ブルーノート』こころが満たされる私になるヒント

著　　片岡麻実

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社